



【実施報告書】 海の祭ismプロジェクトin釜石

一般社団法人マツリズム

最終更新日：2019年1月31日



- 報告書要点
- プログラム概要
- 説明会 兼 オリエンテーションについて
- 祭り当日のプログラムについて
- 事後アンケート・満足度調査（独自調査）の結果
- PRについて
- コンテンツについて
- 集客について
- 実施報告会について

目的・目標に対する成果

<目的①>

海にまつわる物語を持つ祭りへの参加経験や、漁師など海と共に暮らす釜石の方々との交流を通じて、海への好奇心を高めてもらう。



【定量】事前事後アンケートより

①海が好き：4.5→4.5 **KEEP** ②海への親しみ：4.1→4.2 **UP** ③海への興味関心：4.2→4.2 **KEEP**
※もともと海に馴染みのある参加者が多く、事前アンケートのポイントが高め（詳細参照：p.25）

【定性】祭体験や地域の人との関わり合いから、参加者にとって海の存在感の高まり・醸成がうかがえた（詳細参照：p.12,13）

<目的②>

地域の祭りの趣きを感じ、その大切さを体感するとともに、地域における祭りの本質的な価値を感じてもらう。



参加者が祭りの背景を学び、祭りの始まりから終わりまでを地域の人と共に作りあげた経験を通じて、その価値を感じてもらえた（詳細参照：p.12,13）。

<目的③>

人々の暮らしが海と密接に関わってきた釜石のルーツを知ることで、持続可能なコミュニティの在り方を考え、行動するためのきっかけとしてもらう。



実際に祭りに入って体験する中で釜石の活気を感じ、地元の方との交流により学びを得たが、参加者全員が釜石のルーツを感じ取れたかは不明。都度振り返りを行い、それぞれの学びを共有し最大化を試みたが、それが「自分ごと化」されたかは疑念も残る。

<目標>

参加人数20人



18人が参加しました（詳細参照：p.23）。

プログラム概要

プログラムの流れ



参加対象者

大学生

コンテンツ要素

➤ 学ぶ：

- ① 釜石と海の関連性（水産業の変遷など）を学ぶ
- ② 祭りと海の関連性（祭りのルーツなど）を学ぶ
- ③ 仲見世商店街と地域コミュニティの活動を見学

➤ 体験する：

- ① 曳舟まつり参加・観覧
(舟に乗って参加する学生と、
漁船や海岸から観覧する学生に分かれる)
- ② 牡蠣養殖場見学
- ③ 蒸し牡蠣をいただきながら、地域の人々
(漁師、地域おこしに関わる人々) との交流
- ④ 尾崎神社例大祭での神輿担ぎ、行列参加



説明会 兼 オリエンテーションについて

イベント概要

イベント名称	海の祭から地域の『ルーツ』を探るin釜石 説明会 兼 オリエンテーション
開催日程・場所	2018年9月13日：大正大学（東京都豊島区） 10月01日：岩手大学（岩手県釜石市） 10月05日：聖学院大学（埼玉県上尾市） 10月10日：岩手大学（岩手県盛岡市） 10月20日：岩手県釜石市
参加対象者	大学生
参加者数	上記5箇所で計96名
企画関係者	一般社団法人マツリズム 釜石市、尾崎100年学舎、株式会社パソナ東北創生

実施内容

- 祭りについて：「祭りとは何か？」、「祭りの持つ力とは？」など
- 釜石について：釜石と海の関連性を説明
 - ・「鉄と魚とラグビーの街」と言われる釜石の産業の特徴
 - ・水産業の変遷
 - ・震災での津波被害
- 釜石まつりについて：祭りと海の関連性を説明
 - ・尾崎神社について（海上安全・大漁を祈願する海の神様）
 - ・「釜石まつり」の特徴
 - ・「曳舟まつり」という神事の流れ
- マツリズムの活動について
- 日本財団「海と日本プロジェクト」の活動について

説明会 兼 オリエンテーションについて

当日の様子

大正大学にて



聖学院大学にて



岩手大学にて



集合写真（岩手大学にて）



釜石市にて（祭り当日）



釜石市にて（祭り当日）



祭り当日のプログラムについて

イベント概要

イベント名称	海の祭から地域の『ルーツ』を探るin釜石
開催日時	2018年10月20日（土）、21日（日）
開催場所	岩手県釜石市
参加対象者	大学生
参加者数	18名 （うち3名は社会人）
企画関係者	一般社団法人マツリズム 釜石市、尾崎100年学舎、株式会社パソナ東北創生

実施内容

1日目の曳舟まつりは祭り舟の乗船定員の都合で、全員が祭りに参加することが困難であったため、3チームに分かれてプログラムを進行。それぞれのプログラムからの別々の気づきが得られるという良さを活かし、気づき共有し議論する場を多く設けた。（詳細参照：p.11）

1日目	<ul style="list-style-type: none">・ 曳舟まつり：【チームA】祭り舟乗船（祭り参加） 【チームB】海上（漁船）から観覧 【チームC】釜石港から観覧・ 牡蠣養殖場見学・ 尾崎白浜にて牡蠣漁師と交流会・ 仲見世商店街と地域コミュニティの活動を見学・ 参加者と地域の人で懇親会・ 民宿前川に宿泊
2日目	<ul style="list-style-type: none">・ 釜石まつり 市内渡御：神輿担ぎ、行列参加・ 振り返りを実施

祭り当日のプログラムについて

配布物

しおり、海プロ説明リーフレットを配布しました。

<しおり>

スケジュール

※祭りの進行具合によって、時間が押ししたり、一部スケジュールを変更する可能性があります。

<1日目> 曳舟まつり

マツリズムチーム	久保さんチーム	赤崎さんチーム
参加者の名前	参加者の名前	参加者の名前
<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・海岸から曳舟まつりを観覧 	<ul style="list-style-type: none"> ・奥宮へ行く ・海上から曳舟まつりを観覧 ・牡蠣養殖場見学 	<ul style="list-style-type: none"> ・奥宮へ行く ・お召舟・お供舟に乗り曳舟まつりに参加

3チーム合流後

時間	スケジュール
12:30~15:00	尾崎白浜にて漁師さんとプチ懇親会 ※途中合流のチームあり
16:00	仲見世商店街、釜石大観音
18:00	民宿前川

<2日目> 神輿 市内渡御

時間	スケジュール
06:10	民宿前集合→尾崎神社（里宮）へ
08:00	市内渡御 開始
11:00	シープラザ到着、昼食
12:25	シープラザ出発
15:30	釜石港で曳舟を見送る
16:00	尾崎神社に戻り、衣装返却
17:00	振り返り@情報交流センター
18:30	解散

マップ



<2日間を通しての問い>
より良い地域コミュニティをつくるために大切なことは何だろうか？

<ミッション>
釜石まつりのルーツと変遷、
魅力と課題を探れ！

※当日変更内容

- ・2日目の昼休憩場所は郵便局前の広場に変更

祭り当日のプログラムについて

当日の様子

<1日目>

曳舟まつり参加・観覧



<2日目>

市内渡御（神輿担ぎ）



牡蠣漁師との交流会



集合写真（釜石港にて）



集合写真（牡蠣漁師との交流会）



振り返り



祭り当日のプログラムについて

学びを深める取り組みについて

今回のプログラムは、1日目前半は3チームに分かれてプログラムが進行され、参加者やプログラム関係者の属性（年齢・出身・大学や所属学部）も様々でした。

そのため、ジグゾー法という手法を使って要所要所で振り返りを実施し、様々な立場の人から気づきをシェアしてもらうことで、個々の学びが深まっていくように取り組みました。

振り返り①

1日目
仲見世商店街にて



振り返り②

1日目
民宿前川での懇親会にて



振り返り③

2日目 全プログラム終了後
情報交流センターにて



祭り当日のプログラムについて

学びを深める取り組みについて

<振り返り③：全プログラム終了後 情報交流センターにて>

「釜石まつりの魅力」と「より良い地域コミュニティのために必要なこと」についてワークショップ形式にて話し合いを実施。

「釜石まつりの魅力」

- ・釜石の人々は水産業で栄えて海の恵みへの感謝を感じている一方で、震災で津波を経験し海の怖さを経験しているからこそ、**海に対して「畏敬の念」**があるのでは。そんなことを祭りを通して感じる事ができた（参加学生）。
- ・担ぎ手の一体感がすごかった。掛け声や力水（地酒）も関連していると思う（参加学生）。
- ・釜石全体が海の文化とその神様のことを信じており、担ぎ手も住民も同じように尊敬していること（参加学生）。

「より良い地域コミュニティのために必要なこと」

- ・釜石の地域活性のために地域外の人を巻き込むときに、その人が釜石の人々に信頼してもらえるよう、まずは自分自身が釜石の中で信頼を得られるように、日々信頼を積み重ねることを大切にしていきたい（現地コーディネーター）。
- ・祭りの認知度を上げ、リーダーシップをもって時代の変化に柔軟に対応し、女性や外国人など含めた外からの人をどう取り込めるかがポイントだと思った（参加学生）。
- ・少子高齢化や震災の影響がある中で、地域の良さを残したまま、外の人を受け入れていくことが必要だと思った（参加学生）。

コメント

※プログラム開催後に行った、参加者への任意満足度調査への回答を、事後アンケートに併せて記載。

今日の体験で気が付いたこと、思ったこと、驚いたこと

- ・釜石の海や人の繋がりが文化として祭に結び付いていると感じた。
- ・より身近にお祭り（文化）に触れて港町（三陸）の素晴らしさが海と直結して感じられた。
- ・漁師さんの格好良さ。色々な漁師さんに会ってみたいと思った。
- ・オイスターバーなどで産地を気にするようになると思います。地域やその特産物に愛着が持てるようになりそう。
- ・釜石に暮らす人々のパワーやエネルギーが感じられた。
- ・「祭り」の存在感。祭りが元気や活力を生み、この祭りの担い手も観ている人も活力を受け取っているんだなと思いました。
- ・地域にとってのお祭りの意義や役割、地域の特性や経緯を考えるきっかけになった。
- ・釜石まつりでは、神や伝統といった文化が共同体の中で生き続けているのを感じた。
- ・実際にお神輿に向かって拝んでいるのが高齢者ばかりで、祭りをやることの意義の継承も必要だと感じた。
- ・地域の祭りの担い手が減少する中で、地域の祭りを継承していくためには、地域の外からの参加者の存在が不可欠で、外部からの視点でその祭りの良さを発見し、盛り上げていくことが大切だということ。
- ・釜石という街自体の魅力、祭が人をつなぐものということ。
- ・外部のものが祭りに参加しても受け入れてくれる地域の懐の深さは、今後大きな力になると感じた。

コメント

※プログラム開催後に行った、参加者への任意満足度調査への回答を、事後アンケートに併せて記載。

今日の体験で出来て良かった、知って良かったこと

- ・ 漁師の気概を知ることが出来た。
- ・ 漁師さんと話せたこと。漁師さんのかっこよさ、優しさを感じた。
- ・ 神様を祭る系の祭りは初めての経験だったが、感動した。
- ・ 釜石中や小学生と会話できたこと。祭りのイロハを教えてくださいました。
- ・ 地域で釜石まつりが大切にされていることを体感できて良かった。
- ・ 釜石の一体感や神様に対する共通意識、祭りの複雑さなどを深く知ることができた。
- ・ 祭りの歴史やストーリー、地域の人に関わり方について垣間見ることが出来ました。
- ・ 釜石まつりに参加してみて、高齢者が多いのかなとは思っていたが、若い人が多く参加しているのを見ることができて良かった。また、実際にお祭りを観ている人が拜んでいて、本当に信仰しているのが伝わった。
- ・ 釜石がまだまだ元気なまちだということが知れました。特に舟に乗らせてもらった時には釜石の人たちの優しさ、おおらかさを知ることが出来ました。
- ・ 実際にお祭りの中に入って体験して、釜石市の活気の良さを改めて感じる事ができた。

満足度調査（独自調査）の結果

コメント

※プログラム開催後、参加者に任意で本企画全体について満足度調査への回答をお願いしました。

良かった点

- ・ 祭に参加できた点。漁師さんの船に乗せてもらった点。
- ・ 実際に祭に参加できたこと。私たちのような外部の人間でも受け入れていただき、現地の方々と同じように祭に参加出来たことが学びに繋がったと感じています。
- ・ 仲見世商店街などまつり以外の町の取り組みが見学できて、地域がより身近に感じられたこと。
- ・ 両日通して、普段釜石にいても体験できないようなことが出来た点。
- ・ 違う視点で体験した人と意見や感想を共有できた点。
- ・ 学生同士だけの交流だけでなく、年齢や立場の垣根を超えて様々な方と交流できる機会があったこと。

改善点

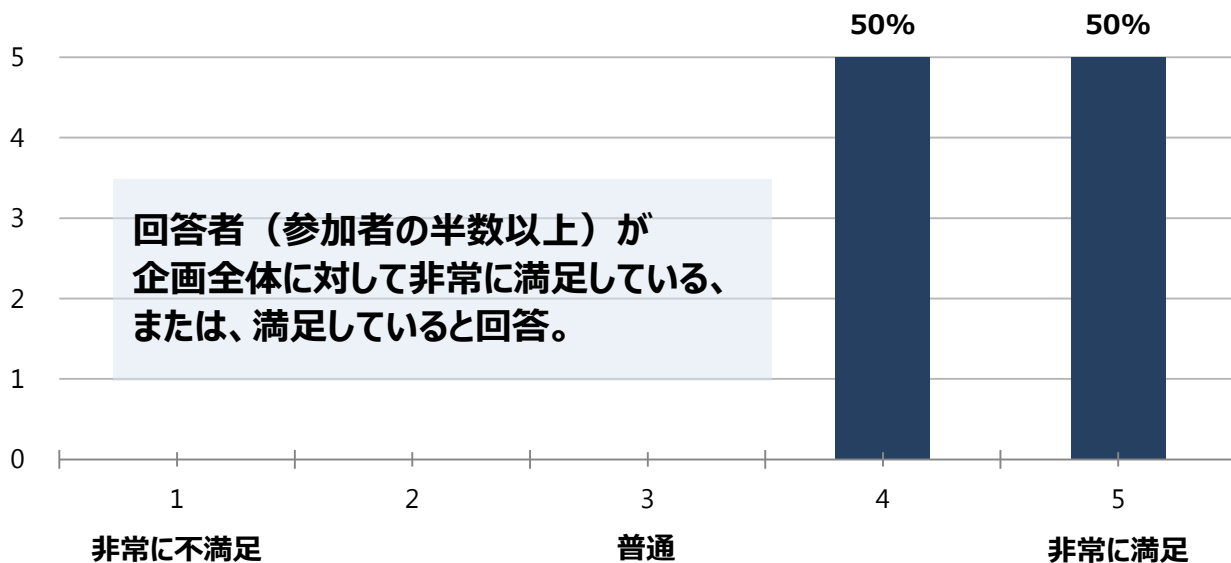
- ・ 交流会の場では、より多くの人と交流できるように、もっと席のシャッフルを行なっても良いと思った。
- ・ まつり関係者や他の参加者とも関わり、交流したい。
- ・ 祭のあとにも地元の話聞く機会があればよかったと思います。
- ・ 欲をいえば同じ参加者ともっと交流をしたいと思っていました。

満足度調査（独自調査）の結果

数値結果

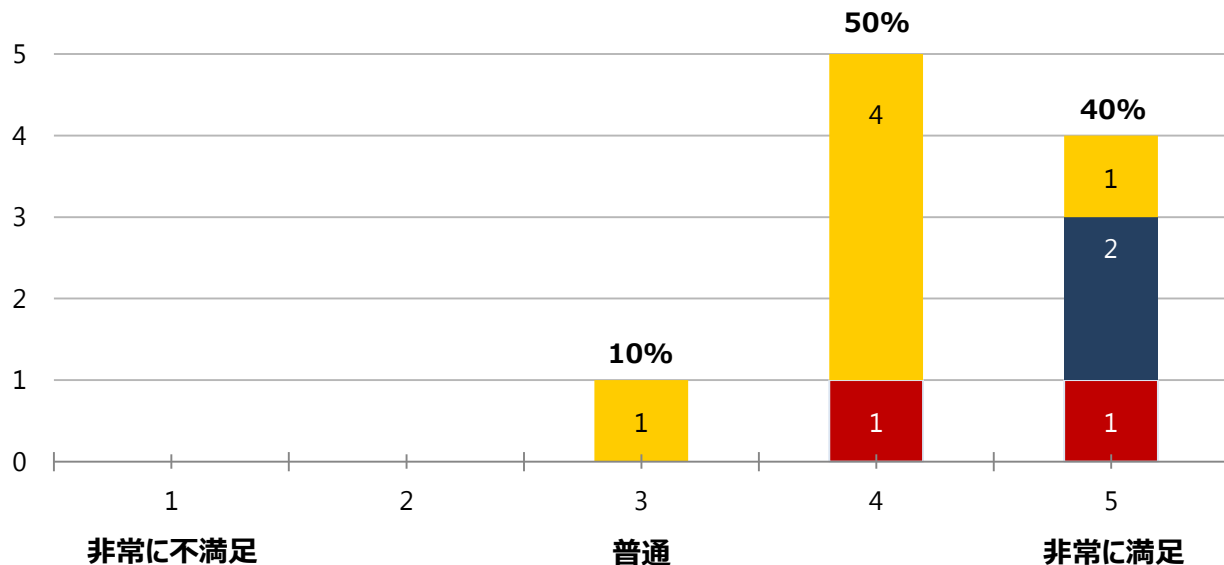
※任意回答で18名中10名の方から回答をいただきました。
 ※縦軸：人数 横軸：満足度ポイント

今回の企画の全体の満足度



曳舟まつり体験または観覧の満足度

■ 港から観覧 ■ 漁船から観覧 ■ 祭りの船に乗船



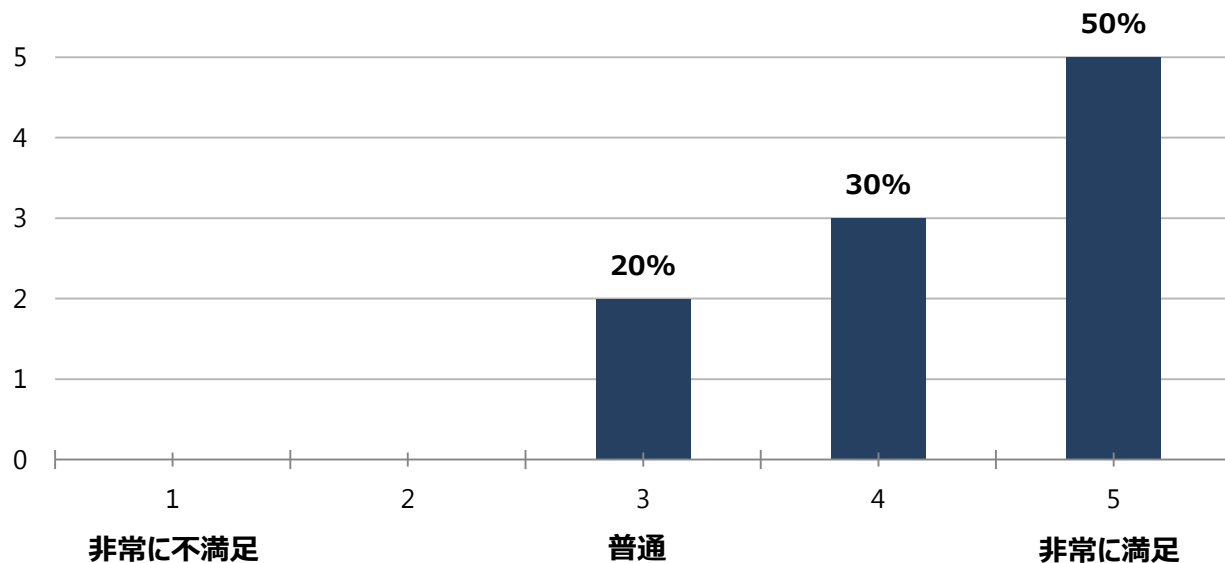
満足度調査（独自調査）の結果

数値結果

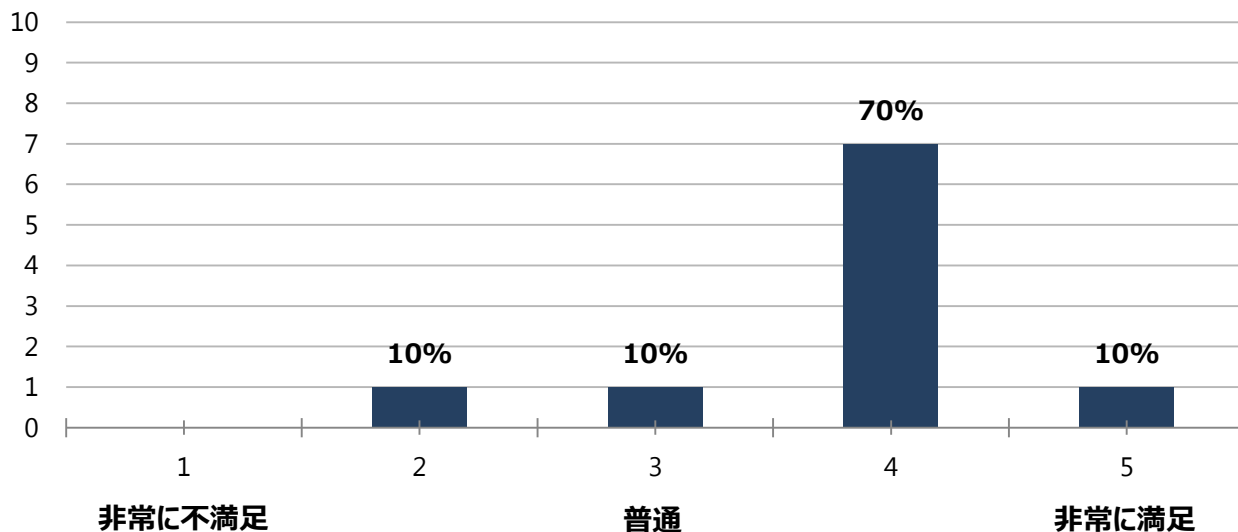
※任意回答で18名中10名の方から回答をいただきました。

※縦軸：人数 横軸：満足度ポイント

尾崎白浜での漁師さんとの懇親会の満足度



仲見世商店街見学の満足度



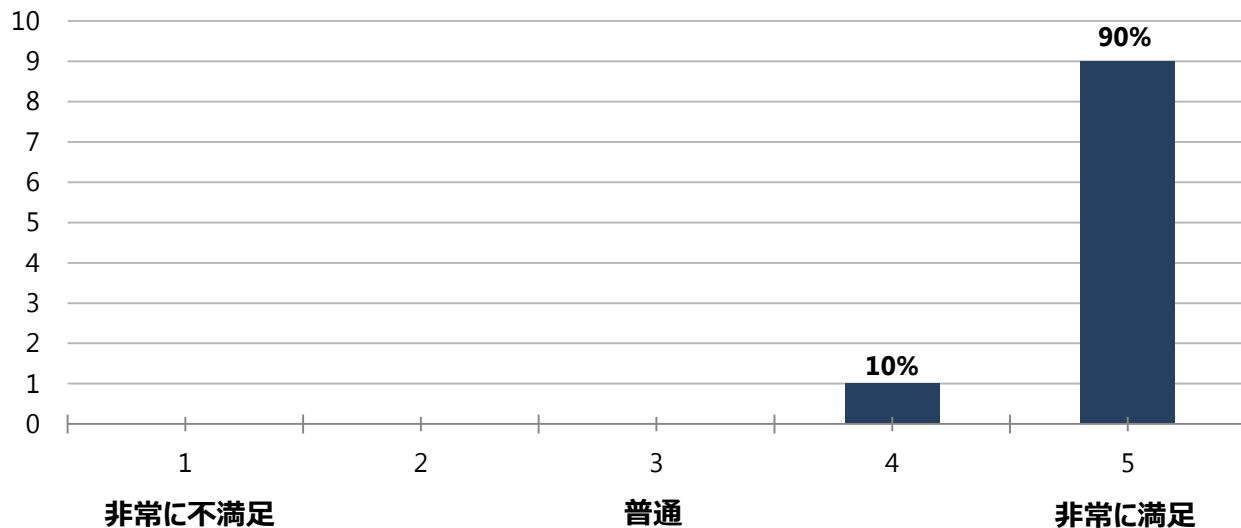
満足度調査（独自調査）の結果

数値結果

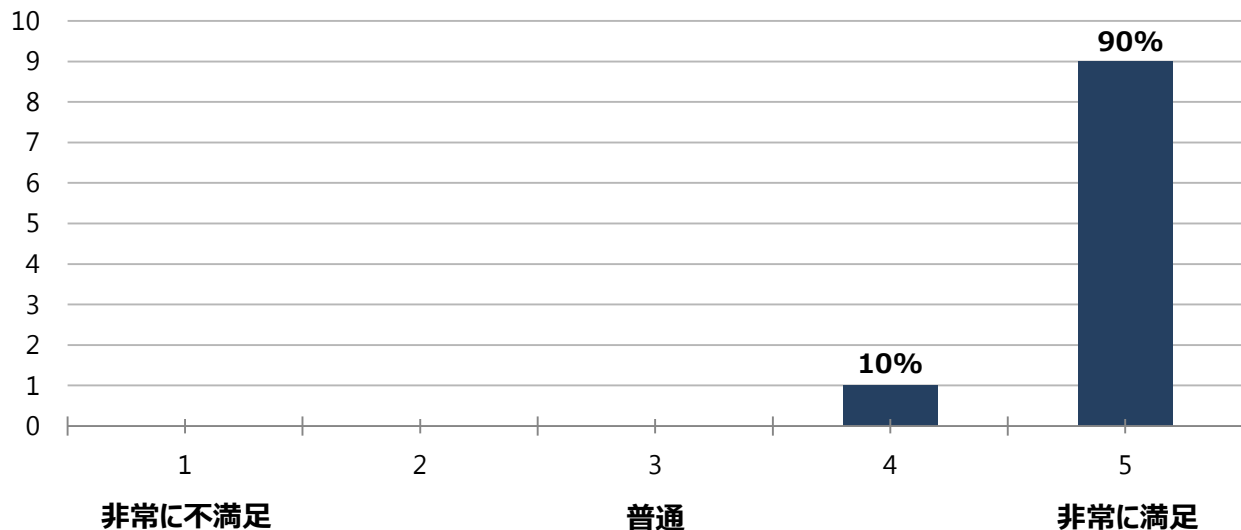
※任意回答で18名中10名の方から回答をいただきました。

※縦軸：人数 横軸：満足度ポイント

民宿前川での懇親会・宿泊の満足度



本企画を通じて、釜石に対する愛着は高まりましたか？

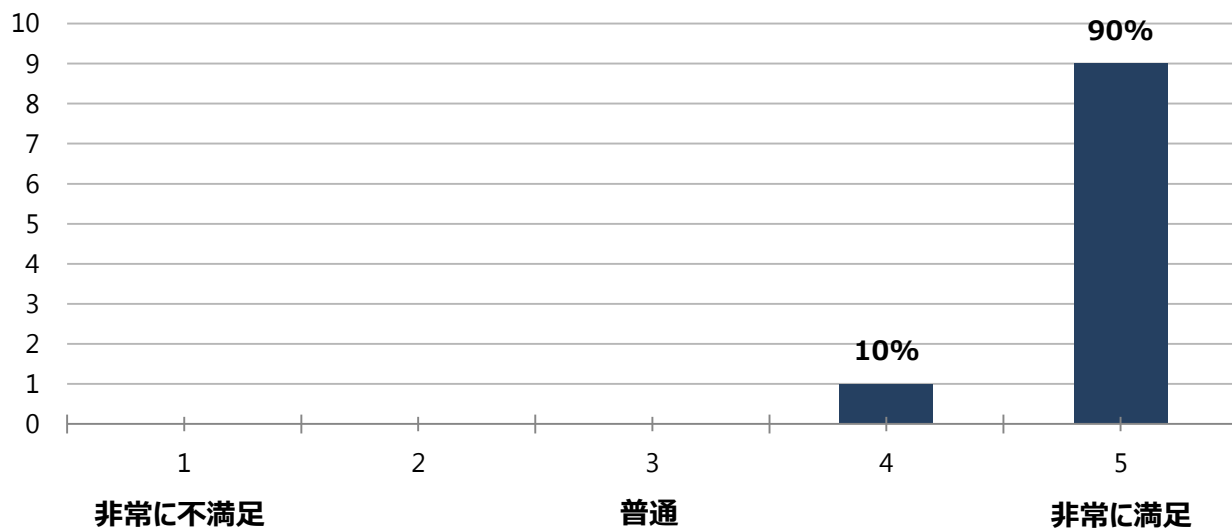


数値結果

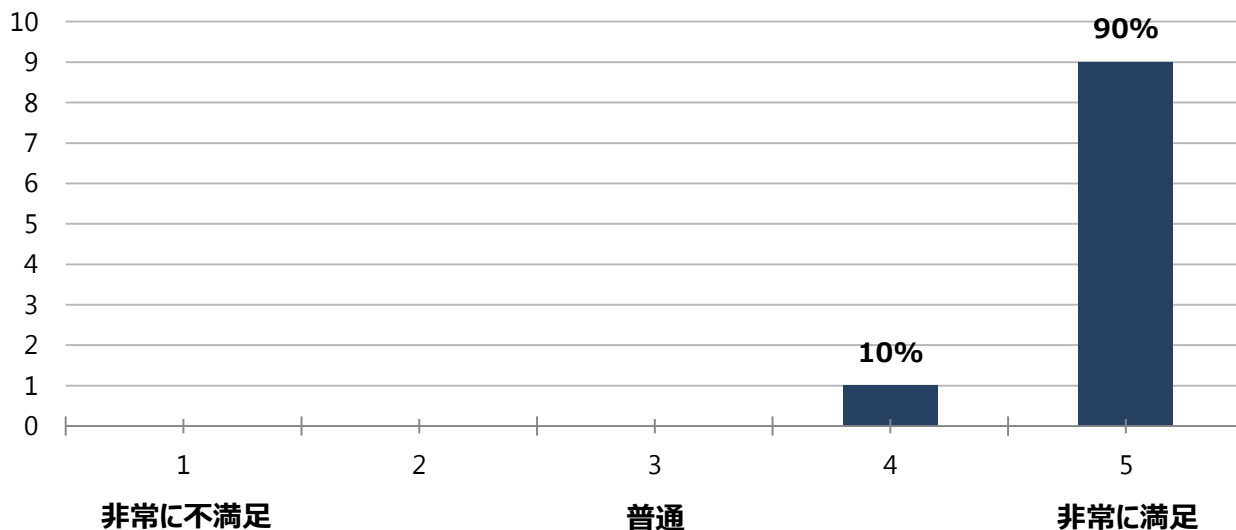
※任意回答で18名中10名の方から回答をいただきました。

※縦軸：人数 横軸：満足度ポイント

また釜石まつりに行ってみたいになりましたか？



マツリズムを友人に勧めたいと思いますか



【成果】PR動画

No.	掲載箇所	再生回数	掲載URL
1	Facebook	820回	https://goo.gl/vz3T7g
2	YouTube	120回	https://www.youtube.com/watch?v=PFQjmNLfgKo


マツリズム (Matsurism)

作成者: 三浦茉依 [?] · 2018年12月26日 19:28 ·

【New Movie!!】※シェア大歓迎！
 2018年10月20日、21日に行われた岩手県釜石市の「釜石まつり」で、マツリズムは大学生向けに祭り体験と地域交流のプログラムを開催し、岩手県内外の学生18名が釜石に集まりました。
 その時の様子をおさめた動画を公開します！
 <youtube> ... もっと見る



 友達と一緒にこの動画を見る
 動画ウォッチパーティを開始

 この動画が視聴された時間は合計332分です
 投稿を宣伝

 関 博充さん、小宮 篤仁さん、他20人
 シェア9件 再生820回


検索



釜石まつり～海の祭ismプロジェクト2018～ (short.ver)
 120 回視聴
 👍 1 🗨️ 0 🔗 共有 📌 保存 ...


 マツリズムMatsurism
 2018/12/21 に公開
 登録済み 22

【成果】メディア掲載（祭り本番）

No.	メディア名	媒体手段	放送日・掲載日
1	岩手日報	新聞	2018年10月21日
2	復興釜石新聞	新聞	2018年10月24日
3	IBC岩手放送	テレビ	2018年10月30日
4	NIPPON TABERU TIMES (http://taberutimes.com/posts/31285)	Web	2018年12月3日

➤ 岩手日報

岩手日報 2018年（平成30年）10月21日（日曜日） 地

大船渡市三陸町の越喜来小（鈴木直樹校長、児童78人）は20日、同校で学習発表会を開いた。東日本大震災を語り継いでいこうと学習を進めてきた5年生15人は、集大成として劇「かなえのタイヤ」を披露。同校の校庭のタイヤの遊具にまつわる実話を基に、震災の記憶を伝え続ける重要さと、タイヤに込められた多くの人の思いを下級生や地域住民らに届けた。

働く生徒の学びや70周年

久慈高 菅長督、記念式典

友、良き師に出会い充実した学校生活を送っている。80周年、100周年へのスレを繰り返す。

大漁、復興 願い乗せ 曳き船

宮古

美沙子さんと作曲家・ピアノの中村由利子さんの講演会「あな〜〜〜」市民サークルと共に朗読し、会場を元気づけた紺野美沙子さん

紺野さんは「この市民文化会館は津波が来たのにこうして復旧し、市民の方と声を合わせて語りつづけてうれしく思う」と語り掛けた。同市崎山の荒田正信さん（65）は「ピアノの即興と下大漁旗を掲げ釜石湾内をパレードする漁船

釜石市の秋「つりの呼び物」曳き船まつりで開かれた。14艘の漁船がを彩る釜石まりりは20日、同市の釜石港「色鮮やかな大漁旗をなびかせて、復興を祈願した。

同市坂町の尾崎神社（佐々木裕基宮司）のみしを載せた船団が午前10時に同港の市魚市場を出発した。約30分かけて尾崎半島青出浜に向かい、同神社奥宮で神体を載せて帰港。船上で笛や太鼓、掛け声を響かせて郷土芸能などを演じながら湾内をパレードし、集まった人々を楽しませた。

日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、一般社団法人マツリズム（東京）が企画し、県内外の学生ら約20人も参加。岩手大3年の渡部一優さん（26）は「華やかで迫力があり、みんな夢中になっていた。21日はみこしを担ぐので楽しんで、目を輝かせた。

21日はみこしが市中心部を繰り返す。

【成果】メディア掲載（祭り本番）

➤ 復興釜石新聞

KAMAISHI SHINBUN 2018年(平成30年) 10月24日(水) 第734号

復興釜石新聞

市長バスで登壇
柿目ぞろえ会
市住吉町3番3号
shinbus@kmail.plala.or.jp

復興進む市街を神輿渡御

釜石市の総神社・新日住釜石製鉄所山神社同の「釜石まつり」は10月24日開演した。20日、総神社の「釜石まつり」を兼ねた神輿が、市内（釜石まつり）の通りを渡御し、復興が進む市街を神輿渡御した。約50人の行列は、釜石まつり会館前をスタートし、市街を巡り、約10キロを歩いた。約100人の参加者が、神輿を担ぎ、市内を巡った。市街を巡る神輿渡御は、釜石まつり会館前をスタートし、約10キロを歩いた。約100人の参加者が、神輿を担ぎ、市内を巡った。

釜石まつり華やかに 大学生らが担ぎ手に

神輿の担ぎ手として、釜石まつり会館前をスタートし、約10キロを歩いた。約100人の参加者が、神輿を担ぎ、市内を巡った。大学生らが担ぎ手に、華やかに市内を巡った。神輿の担ぎ手として、釜石まつり会館前をスタートし、約10キロを歩いた。約100人の参加者が、神輿を担ぎ、市内を巡った。

大学生らが担ぎ手に

釜石まつり会館前をスタートし、約10キロを歩いた。約100人の参加者が、神輿を担ぎ、市内を巡った。大学生らが担ぎ手に、華やかに市内を巡った。神輿の担ぎ手として、釜石まつり会館前をスタートし、約10キロを歩いた。約100人の参加者が、神輿を担ぎ、市内を巡った。

足音

2018.10.24
釜石まつり会館前をスタートし、約10キロを歩いた。約100人の参加者が、神輿を担ぎ、市内を巡った。大学生らが担ぎ手に、華やかに市内を巡った。神輿の担ぎ手として、釜石まつり会館前をスタートし、約10キロを歩いた。約100人の参加者が、神輿を担ぎ、市内を巡った。

「曳き船」「チャグチャグ馬コ」も

釜石まつり会館前をスタートし、約10キロを歩いた。約100人の参加者が、神輿を担ぎ、市内を巡った。大学生らが担ぎ手に、華やかに市内を巡った。神輿の担ぎ手として、釜石まつり会館前をスタートし、約10キロを歩いた。約100人の参加者が、神輿を担ぎ、市内を巡った。

鵜住居川にヤマメ放流 電力センター 栗林小、児童館が協力

釜石まつり会館前をスタートし、約10キロを歩いた。約100人の参加者が、神輿を担ぎ、市内を巡った。大学生らが担ぎ手に、華やかに市内を巡った。神輿の担ぎ手として、釜石まつり会館前をスタートし、約10キロを歩いた。約100人の参加者が、神輿を担ぎ、市内を巡った。

シルバー人材センター街頭PR 人手不足解消へ 加入登録呼び掛け

釜石まつり会館前をスタートし、約10キロを歩いた。約100人の参加者が、神輿を担ぎ、市内を巡った。大学生らが担ぎ手に、華やかに市内を巡った。神輿の担ぎ手として、釜石まつり会館前をスタートし、約10キロを歩いた。約100人の参加者が、神輿を担ぎ、市内を巡った。

【成果】メディア掲載（祭り本番）

➤ NIPPON TABERU TIMES（プログラム参加学生が執筆、文章のみ抽出）

釜石の漁師の担い手はいるのか ～『釜石まつり with 海の祭 ism 祭り参加体験プログラム』参加レポート～

2018年12月3日 — in イベントレポート/ピックアップ地域/家族/岩手/編集部から/農家漁師にインタビュー/農家漁師の子育て

農家、漁師の担い手が足りない。

そんな地域では、“地元のみ”の担い手が足りないという事も多いのではないだろうか。

岩手県釜石市もその一つだ。

「鉄と魚とラグビーの街」と言われる釜石市は、かつては多くの漁師が海で稼ぎ、生活をしてきた。しかし、他の多くの一次産業の現場と同様に、漁師は減少し、担い手不足が課題となっている。それに伴い、海のみまつりである「釜石まつり」の担い手も不足し、まつりの継承についての課題を抱えているという。

そんな釜石市で、一般社団法人マツリズム主催の『釜石まつり with 海の祭 ism 祭り参加体験プログラム』が開催された。マツリズムは、各地で若者や外国人などに向けて、地域のみまつりに参加するプログラムを企画している。釜石まつりのプログラムは、地域のお祭りに、釜石まつり体験に加えて、漁場見学や漁師さんとの懇親会など、盛りだくさんだった。

※プログラムは、海を未来へ引き継ぐアクションを広めている、日本財団『海と日本プロジェクト』の一員です。

漁船の上から曳き船まつりを観覧

釜石まつりは毎年10月の第3日曜日を含む金・土・日に開催される。その中目である土曜日に、曳き船まつりが行われる。海の向こうにある奥宮から市内にある里宮まで、ご神体を船に乗せてお連れする。神像を乗せたお召船を中心に虎舞や神楽を乗せた10数隻の船が海上をパレードをする。

今回、マツリズムのプログラム参加者は特別に、“漁船の上から”曳き船まつりを観覧させてもらった。

マツリズムのプログラムのために漁船を出してくれたのは、地元漁師の箱石忠男さんだ。この地域で牡蠣や、ワカメ、昆布を生産している。釜石まつりのあった10月は、ちょうど牡蠣が旬の時期だった。

箱石さんには、二人の息子と四人の孫がいるそうで、まつりの観覧の際は、孫を連れて船を出してくれた。

箱石さんは、慣れた手つきで船を操縦する。陸への船の寄せ方、ロープの巻き方、どの動作も身体に染み付いている。

かっこいい。

そして、船の上でバタバタ揺れる孫が落ちてこないように心配したり、「もっとスピード出せ～！出せ～！」と言う孫からのリクエストに応じてくれたりする、優しいおじいちゃんだった。

漁師さんと懇親会

曳き船まつりの観覧後は漁師さんをお交際の懇親会だ。

懇親会で、漁師の箱石さんから“漁師の担い手”についてお話を聞いてきた。

箱石さんには二人の息子さんがいるが、二人とも漁師にはならなかったという。息子さんに対して漁師を継いで欲しいと思わないのかと尋ねたところ、「やっぱりさ、親としては漁師やれっていえねえわ。」と箱石さんは言う。

なぜなのか。

漁師の仕事は楽な仕事ではない。

右手一つで自然のモノをとる。決して簡単な仕事ではない。

一人前になるには何年もかかるし、一人前になってからも常に勉強だ。

お給料だって毎月決まった額をもらえるわけではなく、自分がどれだけ捕ったかで稼ぎが決まる。

そうか、漁師の苦労を知っているからこそ、そして漁師である以前に父親だからこそ、

息子には楽をして欲しいのだ。

そんな箱石さんの“漁船”の名前は大悠丸という。その由来を箱石さんは誇らしげに教えてくれた。

「俺の船名はさ、大悠丸。これ（＝大）が長男、これ（＝悠）が次男。長男と次男の名前をとって大悠丸。“大悠丸”って、良いなって思ってたんだ。」と。

息子の名前を船名にする程の、漁師としての誇りが伝わってくる。

マツリズムのプログラムに参加して

今回、マツリズムのプログラムをきっかけに初めて釜石を訪れ、漁師さんとお話しました。そして、今まで知らなかった漁師のかっこよさや、まつりの迫力を知った。

その中でも特に、“大悠丸”に乗って漁に出る箱石さんの話が印象的だった。

漁師の仕事に対する誇りと息子に対する愛情があるが、息子に対し、「漁師の仕事は継げとは言えない」という、矛盾、葛藤があるように感じたからだ。

そして、漁師さんとお話していて、一つ気が付いたことがある。

漁師の担い手不足で困っているのは誰なのか。

漁師さんだろうか。

いや、漁師の担い手がなくなって困るのは、漁師ではなくて、漁師に頼っている私たちなのかもしれない。

漁師も、まつりも、無くなってしまったら寂しい。

若者が、頑張らなくなっちゃな。

<プレスリリース日> 2018年9月14日 (金)

<プレスリリース配信先件数> 256件

Press Release

2018年9月吉日





報道関係各位

**集まれ大学生！「釜石まつり」を通じて地域活性化
「海の祭から地域の『ルーツ』を探る in 釜石」参加者募集
2018年10月20日(土)～21日(日)開催 於・釜石市**

一般社団法人マツリズムは、「海の祭ismプロジェクト」と題して地域コミュニティの持続可能性、震災復興に関心のある大学生20名を対象に2018年10月20日(土)、21日(日)の2日間で「海の祭から地域の『ルーツ』を探る in 釜石」を開催いたします。このイベントは、次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人とながら「日本対面「海と日本プロジェクト」の一環です。

「鉄と魚とラグビーの町」と言われる釜石。かつては海の恩恵を預かり、多くの漁師が海で稼ぎ、生活をしていました。しかし、年々漁師は減り、海とのつながりが薄れてきています。その結果、海の祭である「釜石まつり」の担い手も減少し、今後の祭の継承についても課題を抱えています。このプログラムでは、海の祭である「釜石まつり」への参加や漁師の仕事場見学、地域の方との交流を通じて、釜石の過去と今を知り、地域のルーツを探り、その持続可能性を模索していきます。

毎年10月に行われる海の祭「釜石まつり」は、1967年市制施行30周年を機に「尾崎神社例大祭」と「新日秋山神社例大祭」の合同祭として実施されたのが始まりとされています。浜の守り神である尾崎神社は町にある里宮と釜石湾の対岸にある奥宮に神が分かれ、通常は奥宮にご神体が奉納されています。船を運んで海を越え、ご神体を奥宮にお遷れするのがこの祭の中でも有名な「曳きまつり」で、祭の最後にはご神体を奥宮へ送り出します。また、2つの神社による神輿や山車の合同市内渡御(とぎよ)が行われ、虎舞や鹿踊りといった岩手県の伝統芸能も見所です。

マツリズムでは、今後もこうした企画を通じて、祭りの文化の次世代への継承と地域活性化を図って参ります。

【概要(一般の方向け)】

イベント名	海の祭から地域の『ルーツ』を探る in 釜石
開催日(期間)	2018年10月20日(土)～21日(日)
開催場所	岩手県釜石市(集合・解散:釜石駅周辺)
対象者	大学生20名
交通案内	(参考) ▼東京から 夜行バス利用の場合 <往路> 23:00 池袋発→07:50 釜石駅前着(7,540円) <復路> 20:35 釜石駅前着→05:39 池袋着(7,540円) ▼盛岡から 電車利用の場合 <往路> 08:39 盛岡駅発(JR釜石線)→10:48 釜石駅発(2,270円) <復路> 19:20 釜石駅発(JR釜石線)→21:32 新花巻駅発(東北新幹線はやぶさ)→21:44 盛岡駅着(4,730円)

問い合わせ先(電話番号)	info@matsurism.com
料金	3,000円 ※参加費は保険代、現地交通費、1日目懇親会費を含みます。(15,000円相当のところ、大学生向け特別プログラムとして割引にて実施！) ※釜石駅までの交通費・宿泊費・1日目以外の食費は自己負担となります。
予約・申し込みの有無	予約有・フォームから申し込み(URL: https://goo.gl/mE2dJx) ※一次締切:10月5日(金)
内容	海の祭である「釜石まつり」への参加や漁師の仕事場見学、地域の方との交流を通じて、釜石の過去と今を知り、地域のルーツを探るその持続可能性を模索していきます。
URL	▼海の祭ismプロジェクトサイト http://matsurism.uminohi.jp/ ▼本プログラムの最新情報はこちらから (Facebook イベントページ) https://www.facebook.com/events/325285068049151/

現地でのスケジュール

<20日(土)>
9:00～11:00 集合、オリエンテーション
12:00～14:00 曳舟まつり観覧
15:00～18:00 牡蠣養殖場見学(予定)、地元の人との対話
18:00以降 海の幸を頂きながら懇親会

<21日(日)>
8:00～16:30 釜石まつり参加 尾崎神社参拝、市内渡御 神輿担ぎ(男性)・行列参加(女性)
17:00～18:30 振り返り
18:30 解散

自身で用意するもの

- ・ 上下白の服(祭衣装の下に着用)、白足袋 ※お持ちでない場合はこちらで無料にて用意いたします。
- ・ 2本指または5本指ソックス
- ・ タオルなどの肩当て(神輿を担ぐ男性のみ)

振り返り

- 前日まで粘って最終的に3社(うち1社はテレビ局)に来てもらい、取り上げていただけた。
- 十数か所のメディアにアプローチをかけたが、結局IBC岩手放送以外はローカル新聞社のみ取材訪問となった。岩手県内でも取材エリア外というところもあったので、フリーペーパーなどローカル冊子等も含めて、来年度実施の際は釜石まで取材に来てくれる可能性のあるメディアがどこなのかを早く明らかにしておく。

- 熱海こがし祭りプログラムでは最大の反省点だった**現地コーディネーターとの連携が今回上手くいった。**
最初に一緒にプログラムを構想し気持ちを合わせるところからスタートし、早い段階で仕事として正式に依頼して、遠隔でも密にコミュニケーションを取っていった結果、人の紹介や現地のプログラム調整など必要な協力を十分に得られた。
- **マツリズムとしては今回のように行程が複雑なプログラムは初の試みで、調整が大変だったが、当日概ね上手く進行でき、満足度が高く終えられた。**
- 漁師との交流会など、地元の人たちとの接点を設けられたことが良かった。
一方で、**漁師さんとの交流については学生によって交流に偏りがあったので、次回は積極的にコミュニケーションを取りやすい席の配置を考える等、工夫していく。**
- 参加人数について、祭り中や移動中に適宜ガイドをしたり、地元の方や参加者同士の交流を深めたりすることを考えると、20名だと多いと感じた。
次回同様のプログラムを行う場合は、10名～15名程度で実施することや、スタッフを増強するなど検討したい。
- 費用については、マツリズム側で衣装準備等を行ったりと、コストを最小限に抑える工夫はしたが、特に大学教授から「参加ハードルを下げられるためにもっと費用を抑えられないか」という要望を何度かいただいた。
今回聖学院大学で実現できたように、来年度は交通費補助が出るように早めに大学との調整を進めるなど、出来る工夫をしていきたい。
- オリエンについては一部の参加者は事前と当日で2回受けることとなったり、当日のみの人もいたなど、情報理解にばらつきが見られた。
来年度はオリエン以外にも参加者全員に事前に地域や祭りについてインプットしてもらうようにして、当日は「体験」に集中できるようにプログラムを調整していく。
- 要所要所で個々の体験を共有してもらったことで、一人では体験しきれないことを理解してもらうことができた。
一方で、最後の振り返りはその場の空気感や状況に合わせて短縮したこともあり、共有してもらった皆の気づきを「自分ごと化」するところまで取り組めなかったため、**次回プログラムの中にワークショップを取り入れるをやる際は、状況に合わせてつつも最大の効果が出せるよう、進行パターンを2パターンほど予め準備しておきたい。**
また、ワークショップの設計についてジグゾー法とかワールドカフェとか、こちら側の意図をあらかじめ伝えておくことで、参加者が取り組みやすいよう工夫したい。

【振り返り】集客について



参加募集チラシ



**大学生20名限定
特別価格にて実施！**

海の祭から地域の「ルーツ」を探る in 釜石
～海の祭ismプロジェクト2018～

「将来、地元へ貢献したい、地域で何かをしたい。でも、どんな方法があるんだろう？」

世の中にはたくさん地域があり、それぞれの地域に固有のルーツがあります。海の町として栄えた釜石の祭を通じて、地域のルーツを探り、自分らしい地域への関わり方を考えてみませんか？

#地域活性

#海と伝統文化

#復興

日程 2018年10月20日(土)、21日(日) ※1泊2日

場所 岩手県釜石市 (集合・解散：釜石駅周辺)

参加申込先 <https://goo.gl/mE2dJx>
<一次締切> 10月5日(金)

お問い合わせ info@maturism.com
または、Maturism Facebookメッセージ
(m.me/maturism.jp)にメッセージください。

昨年の釜石まつりの様子はこちらからご覧ください。



[URL] <https://goo.gl/vQd7vX>

【主催】一般社団法人マツリズム

【共催】尾崎100年学会、(株)パノナ東北創生

【後援】(公財)日本財団、釜石市

プログラムの背景

「鉄と魚とラビーの町」と言われる釜石。かつては海の恩恵を預かり、多くの漁師が海で稼ぎ、生活をしていました。しかし、年々漁師は減り、海とのつながりが薄れてきています。その結果、海の祭である「釜石まつり」の担い手も減少し、今後の祭の継承について課題を抱えています。このプログラムでは、海の祭である「釜石まつり」への参加や漁師の仕事場見学、地域の方との交流を通して、釜石の過去と今を知り、地域のルーツを探ってその持続可能性を模索していきます。



プログラムの流れ

- 事前オリエン (10月上旬)
 - ※事前オリエンは参加学生の都合により、開催場所・日時を決定します。(当日のライブ配信や後日の録画共有も実施予定です)
- 祭り当日 (10月20日・21日)
 - ※12月には釜石にて実施報告会を開催予定。(任意参加)

 伝統の祭りの担い手として参加

 地元漁師と社員の職場場を見学

 地域文化の持続可能性を探る

プログラム概要

- 対象・定員：大学生20名 ※一次締切：10月5日(金)
- 参加費：3,000円 ※祭り当日お支払い
 - ※参加費は保険料、現地交通費、1日目の懇親会費を含みます。(15,000円相当の交通費、大学生が参加費プログラムとして割引にて実施！)
 - ※釜石駅までの交通費・宿泊費・1日目夜以外の食費は自己負担となります。
- ご自身で準備いただくもの
 - ・上下白の服 (祭衣の下に着用) ※お持ちでない場合は、こちらで無料にて用意いたします！
 - ・白足袋
 - ・2本指または5本指ソックス
 - ・タオル等の肩当て (神楽を担ぐ男性のみ)
 - ・貴重品を入れる中袋などがあると便利です。
 - ※釜石までの移動手段は各自で手配ください。
 - ※宿舎は推奨の安宿を別途ご案内します。
 - ※釜石駅周辺に在住で日帰り参加希望の場合は、別途ご相談ください。
- 集合・解散について
 - <集合> 10月20日(土) 9:00～11:00 釜石駅
 - <解散> 10月21日(日) 18:30 釜石駅周辺

【参考：交通案内】

- ▼東京から 夜行(バス利用の場合)
 - <往路> 23:00 池袋発 → 07:50 釜石駅前着 (7,540円)
 - <復路> 20:35 釜石駅前着 → 05:39 池袋着 (7,540円)
- ▼盛岡から 電車利用の場合
 - <往路> 08:39 盛岡駅発 → 10:48 釜石駅着 (2,270円)
 - <復路> 19:20 釜石駅発 → 21:44 盛岡駅着 (4,730円)

※プログラム前後も前泊希望の場合はご相談ください。

現地でのスケジュール

※重要可能性あり

<p>1日目</p> <p>09:00～11:00 集合-オリエンテーション</p> <p>12:00～14:00 釜石まつり観覧</p> <p>15:00～18:00 社務員職場見学(予定)、地元の人との対話</p> <p>18:00以降 海の幸を頂きながら懇親会 → 宿泊</p>	<p>2日目</p> <p>08:00～16:30 釜石まつり参加</p> <p>尾崎神社参拝、市内散歩</p> <p>神楽担ぎ(男性)、行列参加(女性)</p> <p>17:00～18:30 振り返り</p> <p>18:30 解散</p>
---	--

プログラム実施体制

【主催】一般社団法人マツリズム (<http://www.maturism.com/>)

「限りの力で、町を元気に！」をモットーに、地域の祭の担い手を応援する団体です。担い手不足に悩む地域の祭と都市部の若者や外国人をつなげ、祭文化の次世代への継承と地域活性化に貢献します。

【共催】尾崎100年学会、(株)パノナ東北創生

【協力】(公財)日本財団、釜石市

※本プログラムは日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、次世代の子ども達を対象に海の祭りを通して海の大切さを伝える取り組みです。

主催者

一般社団法人マツリズム 代表理事 大塚 孝

祭りの楽しさを伝え地域をつなぐ「マツリズムチーム」として、祭りの本質を体験してもらおうとプログラムを4年連続30回の～300名に対して提供している。

実行ディレクター

尾崎100年学会 代表 久保 豊也

尾崎半島をフィールドにした観光プログラムの企画・運営を行う。昨年から社務員職の仕事を始め、漁業と観光を軸にした尾崎半島の新しい働き方づくりに取り組んでいる。

集客活動の動き

- 8月2日 | 現地コーディネーターに集客協力依頼 (早稲田大学・聖学院大学へのアプローチ開始)
- 8月30日 | 岩手大学教授A・教授Bに集客協力依頼
- 9月7日 | 早稲田大学教授に集客協力依頼
- 9月13日 | 大正大学にて先行告知
- 9月14日 | プレスリリース、募集開始 (媒体告知、説明会、個別アプローチをスタート) ※媒体告知：Facebook、Twitter、海の祭ismサイト、マツリズムホームページなど
- 9月19日 | 岩手大学教授Cに集客相談
- 9月25日～9月30日 | Twitter広告
- 9月28日 | 英語版チラシ(左画像参照)を岩手大学に設置
- 10月5日 | 聖学院大学にて告知
- 10月10日 | 岩手大学教授Dに集客協力依頼



Copyright 2018 一般社団法人マツリズム All Rights Reserved.

集客活動の動き

- 8月2日 | 現地コーディネーターに集客協力依頼 (早稲田大学・聖学院大学へのアプローチ開始)
- 8月30日 | 岩手大学教授A・教授Bに集客協力依頼
- 9月7日 | 早稲田大学教授に集客協力依頼
- 9月13日 | 大正大学にて先行告知
- 9月14日 | プレスリリース、募集開始 (媒体告知、説明会、個別アプローチをスタート) ※媒体告知：Facebook、Twitter、海の祭ismサイト、マツリズムホームページなど
- 9月19日 | 岩手大学教授Cに集客相談
- 9月25日～9月30日 | Twitter広告
- 9月28日 | 英語版チラシ(左画像参照)を岩手大学に設置
- 10月5日 | 聖学院大学にて告知
- 10月10日 | 岩手大学教授Dに集客協力依頼

Special Price for 20 Univ. Students!

Seeking roots of KAMAISHI from Umi (sea) Festival - Umi no Maturism Project 2018 -

"I want to contribute to my hometown, do something for the district. But how can I help them?" There are many local communities in Japan, and each communities has peculiar roots. Through a Maturism Festival in Kamashi, let's investigate their roots, and consider your way of contribution.

#UmiFestival #LocalCommunity #TraditionalCulture #EarthquakeRecovery

When Oct. 20 (Sat) to 21(Sun), 2018

Where Kamaishi, IWATE (near Iti district place near JR Kamaishi Station)

Registration <https://goo.gl/mE2dJx>
Deadline Oct.5 (Fri)

Contact Email to: info@maturism.com
Or Send message to our Facebook (<https://www.facebook.com/maturism/>)

Main Photo: Maturism. Co. Edit: Social Photography, Photo: PhotoLab. Support: The Japan Foundation, Kamashi City.

参加家庭の属性・参加ルート

参加目標人数20名に対して18名の参加と、概ね達成。

No.	属性①	属性②	人数	参加ルート
1	聖学院大学	人間福祉学部児童学科	1名	大学教授・ボランティアセンター職員経由 ※交通費補助制度を利用
2	早稲田大学	政治経済学部経済学科	1名	大学教授 経由
3	岩手大学	人文社会科学部 うち4名は水産系のゼミ生	5名	大学教授 経由
4	岩手大学	農学部水産システム学	6名	大学教授 経由
5	徳島大学	総合科学部社会創生学科	1名	現地コーディネーター 経由
6	慶應義塾大学院	政策・メディア研究科	1名	知人からの紹介
7	社会人	—	3名	直接声掛け

振り返り

- マツリズムとしては初めて大学経由（教授・職員経由）での集客を行い、参加者を集めることができた。
一方で、**集客スケジュールが7月はテスト期間、8月・9月は夏休みといった大学生のスケジュールを把握した上でのものではなかった**ので、**次回実施の際はそれを考慮した上で、集客スケジュールを引く**（但し、釜石まつりの開催日程の確定自体が8月以降だったりもするので、それより早くプログラム告知を始める場合は工夫が必要）。
- 今回釜石に繋がりのある大学にアプローチした、3大学（5名の教授・職員）と繋がることができました。
大学経由で募集をかけたのにも拘らず、集客開始が夏休みと被ってしまったこともあって最後まで集客に尽力する形になったが、上記記載の通りスケジュールを工夫するだけでなく、**次回はアプローチする大学を増やすことも検討する**。

イベント概要

イベント名称	海の祭から地域の『ルーツ』を探るin釜石 実施報告会
開催日程・ 場所・ 各参加人数	2018年 ・12月11日：聖学院大学（埼玉県上尾市） 10名 ・12月19日：岩手県釜石市 （市役所 4名 、地域交流センター2箇所 17名 ） ・12月20日：岩手大学（岩手県盛岡市） 7名 2019年 ・1月26日：マツリズム主催イベント「祭サミット」 65名
参加者	大学生、社会人（釜石市の行政職員、釜石市の人々、大学教授、大学職員、釜石まつり以外の祭の担い手、他の祭のツーリズム参加者 など）
参加者合計	上記6箇所です計103名

※もともとの助成事業実施期間は2018年12月31日まででしたが、
 期間の延長申請の承諾を受け、2019年1月26日の「祭サミット2019」の人数も合算しています。

実施内容

※報告会の参加者の属性に合わせてそれぞれ別の内容を扱っていますが、
 下記にまとめて記載。

- 実施したプログラム内容の報告
- 制作したPR動画の上映
- プログラムに参加した学生を囲んで、体験したことについてのトークセッション
- プログラムに参加した学生による感想シェア
- 祭の未来を考えるディスカッション

実施報告会について

当日の様子（聖学院大学・釜石市・岩手大学にて）

聖学院大学にて



聖学院大学にて



岩手県釜石市にて



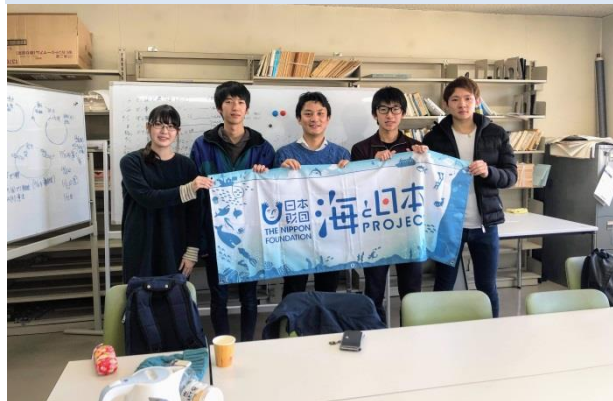
岩手県釜石市にて



岩手県釜石市にて



岩手大学にて



実施報告会について

祭サミット2019とは

マツリズムが関わる祭りの担い手を中心に、ワークショップ形式で祭の未来を考えるマツリズム主催イベント。

昨年度の初開催に続き、今回で2回目。

「蒼れ」というテーマのもと、祭りの担い手と各祭りのツアー参加者が交流する形にし、祭りの大切さを再認識する機会をつくりました。

当日は熱海こがし祭りと釜石まつりの担い手を含め、全国8箇所の祭りの担い手が参加。また、熱海こがし祭りのプログラム参加者(親御さん) や釜石まつりのプログラム参加者(学生)も本イベントに参加し、祭りの担い手とともに祭の未来を考えました。

祭サミット 2019

2019.1.26 Sat

第1部 祭議 (まつりばかり)

14:00～ アーク森ビル NTTドコモベンチャーズラウンジ

マツリズムが関わる祭の担い手を中心に、ワークショップ形式で祭の未来を考える場です。立場に関わらず、一緒に語り合います。

オープニング
マツリズム 2018年の振り返り
インスピレーショントーク「現代社会における祭の価値」
渡邊賢太郎氏

グループワーク「祭ぶっちゃけトーク」
ファシリテーション 藤本 海氏

クロージング/マツリズムのこれから

大学時代に「地域コミュニティ構築策としての祭の活性化」を研究。自身も地域の祭りに参加し、2014年にスナリオプロジェクトを立ち上げ、自治体の祭りの活性化を推進。現在は「人間の創造性を高める祭」をテーマに活動している。

都立大で人材ベンチャーに社歴。上場までを体験。311の震災後、世の中の価値観のシフトを感じ、同じ思いを共有し、精神的な成長を促す。現在は、社会起業家の育成に力を入れている。この「魂」のファシリテーターに就任。

第2部 宴

19:00～ 赤坂見附 DECK

担い手、ツアー参加者や飛び入り関係なく、お酒を交えて交流会形式で語りあう場です。

「祭サミット」開催によせて
一般社団法人マツリズム 代表理事 大原 学

祭サミット 2019にご参加いただき、誠にありがとうございます！
履歴や形勢に関わらず、地域を代表して多くの祭の担い手の方々に集まっていたくださいました。みなさん「一人一人の「魂」」でこの場を盛りあげ、新しい何かが始まることを心から楽しみにしています！

企画・運営 一般社団法人マツリズム 協力：NTTドコモベンチャーズ

祭サミット 2019 に集うお祭り紹介

<h4>黒石寺蘇民祭 (岩手県奥州市) 2月12日</h4> <p>祭りの自白 限界といふ程まで引いてはいけない。水で濡れ、火で焼く身体に在る邪気を感じ、季節感で己の限界、いや季節前に気づけます。人生が変わります。</p> <p>参加者コメント 「震災後で自分と自分の意識、固さとの向き合いました。1人の魂としての祭を体験しました。言葉がわからず参加していたことを感じました。」</p>	<h4>釜石まつり (岩手県釜石市) 10月18-20日</h4> <p>祭りの自白 【釜石赤巻】神徳をお返しした起原は土産物となり、見守る人を祭ります。【六角大神】壬辰戦と美しさを象徴した六角形の神輿は全国でも希少です。</p> <p>参加者コメント 「獅子踊りや地舞などの華やかさもあるのですが、観たことがなかったのが面白かったです。【六角大神】壬辰戦と美しさを象徴した六角形の神輿は全国でも希少です。」</p>
<h4>小浜の紋付祭り (福島県二本松市) 10月12-14日</h4> <p>祭りの自白 本祭りでは御神輿に御神輿出陣大鼓台(山車)4台が供奉する形で御神輿御神事が行われ、約100名の若者が御神輿を担ぎ、御神輿を担ぎ廻ります。夜は太鼓台に旗を取り付け、夜やなひやしんぎ踊りが盛りだくさん。</p> <p>参加者コメント 田舎の人と人の繋がりの濃さが生み出される祭りの熱さ。その熱に燃れて歩きつづきました！1体感！1体感！絶賛の紋付祭り！10日は心に残りました！」</p>	<h4>高木神社例大祭 (東京都墨田区) 6月1-2日</h4> <p>祭りの自白 普段外出をしない近所のおばあさんも、お祭りの時には思わぬ華やかさを感じました。本祭りで祭る、被災と浄化を願った釜石まつりの神輿は全国でも希少です。</p> <p>参加者コメント 「獅子を担いでいない地域の友、家を出るご主人や子どもが楽しそうにしているのは嬉しく印象的でした。重かった獅子のことを忘れてしまいました。」</p>
<h4>熱海こがし祭り (静岡県熱海市) 7月15-16日</h4> <p>祭りの自白 伝統に則った神事「祭宮神社例大祭」と、30基もの山車がある祭りの「山車ツアー」が同時に開催され、地域に響きわたる祭りの熱気を感じました。また、祭りの熱気を感じました。</p> <p>参加者コメント 「文楽に4つの町が集まって太鼓で盛り上げる最後の時間、祭りの熱気を感じました。祭りの熱気を感じました。また、祭りの熱気を感じました。」</p>	<h4>古川祭 (岐阜県飛騨市) 4月19-20日</h4> <p>祭りの自白 800年以上の歴史がある古川祭。誰もが知っている「古川」を舞台にした祭りの熱気を感じました。また、祭りの熱気を感じました。</p> <p>参加者コメント 「地域のテーマやお祭りには、さらに盛り上がる。祭りは熱気を感じました。また、祭りの熱気を感じました。」</p>
<h4>大東七夕祭り (島根県雲南市) 8月6日</h4> <p>祭りの自白 445年続く平和を願う子ども行列は、竹に提灯やスイカ提灯を付け、1.5kmを歩きます。行列の最後は赤川へ向けて子ども花火を行います。</p> <p>参加者コメント 「風情、人なごみ祭りの魅力が感じられていると言っていました。また、祭りの熱気を感じました。また、祭りの熱気を感じました。」</p>	<h4>志岐郷ノ浦福福山笠 (長崎県志岐市) 7月27-28日</h4> <p>祭りの自白 昔は山笠で引込まぬ思慕の男たちが、年に一度、仕事で家を離れて行く。仕事で家を離れて行く。仕事で家を離れて行く。仕事で家を離れて行く。</p> <p>参加者コメント 「クワイアックスは山笠を担いで祭ります。祭りの熱気を感じました。また、祭りの熱気を感じました。」</p>

実施報告会について

当日の様子（祭サミット2019～誉れ～）

2018年度活動報告



海プロに参加した学生 気づきシェア



熱海こがし祭りの担い手 登壇



釜石まつりの担い手 登壇



集合写真（第一部）



集合写真（第二部）

